

前立腺全摘除術を受けられる患者様

患者様氏名：

主治医：

担当看護師：

項目/月日/病日	手術前日(/)	手術当日(/)術前	手術直後
1. 治療(注射)		朝、点滴を行います	中心静脈に点滴をします
(処置)	検温をします ・手術に履いて行くストッキングのサイズを測ります ・手術部位の除毛をします	・朝8時頃浣腸をします ・膝下までストッキングを履きます	頻回に検温をします ・手術後より尿の管と、背中に痛み止めの管が入ります。 ・血液や浸出液を体外に出すために、お腹に管が入ります。 ・手術後より酸素吸入をします ・動脈に血圧測定や採血を行いやすいように血管をとります ・心電図をとる機械を付けます
(内服)	寝る前に下剤を内服します		
2. 検査			・採血をします ・レントゲンを撮ります
3. 栄養	・普段通り食事ができます ・()時以降食事ができません ・水分は()時まで飲めます	飲食ができません	
4. 活動(安静度)	自由		ベッド上安静です
5. 清潔	入浴できます	お体を拭きます	
6. 排泄	尿量を測ります		尿の管を挿入します
7. 説明	・入院生活について説明があります ・薬剤師から薬の説明があります ・手術・麻酔についての説明があります ・手術後の尿漏れ予防のために骨盤底筋体操の説明があります		・手術後に医師より説明があります ・痛みや尿道カテーテルの不快が強くなる場合には遠慮なく看護師に伝えてください
8. 患者様目標	手術の必要性を理解し、術前オリエンテーションを受けられるようにしましょう	不安なく手術を受けられるようにしましょう	安楽に術後を過ごすことができ、適切な処置が受けられるようにしましょう

前立腺全摘除術を受けられる患者様

患者様氏名：

主治医：

担当看護師：

項目/月日/病日	1日目（ / ）	2日目（ / ）	3日目（ / ）
1. 治療(注射)	朝夕に抗生物質及び栄養水分補充のための点滴を行います		
(処置)	検温をします		
	・酸素吸入が終了します ・背中に入っている痛み止めの管を抜きます(明後日になることもあります) ・状態が良ければ動脈の血管に入っている管を抜きます ・状態が良ければ心電図の機械を外します		
(内服)	医師の許可が出たら持参薬を飲み始めてください		
2. 検査	採血をします		
3. 栄養	・ 医師の許可が出たら飲水ができます。	・ 排ガスを確認したら食事を開始します。	
4. 活動(安静度)	ベッド上に座ることができます	歩くことができます。歩行できれば弾性ストッキングを脱ぎます。	
5. 清潔	お体を拭きます		
6. 排泄	尿の管が入っています		
7. 説明	・ 痛みや尿の管の不快が強くある場合には遠慮なく看護師に伝えてください		
	・ 骨盤底筋体操を始めてください		
8. 患者様目標	安楽に術後を過ごすことができ、適切な処置が受けられるようにしましょう		
	ベッド上に座って気分転換を図りましょう	歩行を開始し離床を図っていきましょう	身の周りの事ができるようにしていきましょう

前立腺全摘除術を受けられる患者様

患者様氏名：

主治医：

担当看護師：

項目/月日/病日	4～5日目 (/ ~ /)	6日目 (/)	7日目 (/)	8日目 (/)	9～12日目 (/ ~ /)
1. 治療(注射)	中心静脈の 点滴を抜きます。				
(処置)	検温をします				
	5日目にお腹に 入っている血液 や浸出液を排出 する管を抜きます (出ている量が 少なければ早め に抜けます)		傷を縫っている 糸を半分抜きます	傷を縫っている糸 を全部抜きます	
(内服)					
2. 検査		採血をします			
3. 栄養					
4. 活動(安静度)	制限はありません				
5. 清潔	お体を拭きます				
6. 排泄	尿の管が入っています				
7. 説明	痛みや尿道カテーテルの不快が強くなる場合には遠慮なく看護師に伝えてください				
8. 患者様目標	適切な処置が受けられるようにしましょう				

前立腺全摘除術を受けられる患者様

患者様氏名：

主治医：

担当看護師：

項目/月日/病日	13日目 (/)	14日目 (/)	15～20日目 (/ ~ /)	21日目 (/)
1. 治療(注射)				
(処置)	検温をします			
		造影検査後、尿の管を抜きます		
(内服)				
2. 検査		尿の流れを調べるために、尿の管から造影剤を入れる検査があります		
3. 栄養				
4. 活動(安静度)	制限はありません			
5. 清潔		入浴できます		
6. 排泄	尿の管が入っています	尿量を測ります		
7. 説明	・尿とりパットの必要性について説明があります ・骨盤底筋体操について再度説明があります			
8. 患者様目標	適切な処置が受けられるようにしましょう	・骨盤底筋体操を行いましょう ・尿漏れに対し落ち着いて対応できるようにしていきましょう		